

水土里ネット ながの情報



長野県土地改良事業団体連合会
土地改良のしるべ



CONTENTS

- 第47回全国土地改良大会佐賀大会
- 国会議員への要望行動
- 本会若手職員が「棚田」で稲刈り体験
- 特集第66回全国土地改良功労者表彰
受賞地区の紹介 松本市寿土地改良区
- 長野県からのお知らせ
2025年度農業農村工学会賞を県関係者が3部門受賞
- ふるさと水土里こども絵画展2025受賞作品紹介
- 人事異動
- 令和8年度の全国土地改良大会の開催県紹介

第47回全国土地

水を利用して土を活かす



全国土地改良事業団体連合会の二階会長による主催者あいさつ

第47回全国土地改良大会佐賀大会が、令和7年10月15日、「水を利用して土を活かす さがで語ろう郷里の未来」をスローガンに佐賀県で開催され、会場となった佐賀市SAGAアリーナには全国各地から土地改良関係者4,200人が集まった。長野県からは、土地改良区役職員や信州水土里ネットりんどうの会役員、本会役員など46名が参加した。

式典では、はじめに開催県として佐賀県土地改良事業団体連合会 田島健一会長のあいさつの後に、主催者として全国土地改良事業団体連合会の二階俊博会長があいさつされた。

佐賀県の山口祥義知事、佐賀市の坂井英隆市長による歓迎あいさつの後に、青山健治農村振興局次長、佐賀県議会 宮原真一議長、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問の進藤金日子氏から祝辞が述べられた。

土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰6名、農村振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会長表彰44名が受賞し、長野県からは川田土地改良区理事長で本会代表監事の和田博次氏が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞された。

その後、農林水産省農村振興局の青山次長による「次世代へ希望をつなぐ土地改良」と題して基調講演が行われた。続いて優良事例紹介として、白石土地改良区の久原英之氏と江口功汰氏による「白石地域の農業農村の将来に向けて白石土地改良区の変遷」についての事例発表が行われた。

最後に、佐賀県内の改良区職員が『「水を利用して土を活かす。」思想を継承して、国の基である農業を発展させてきたが、我が国の食料・農業・農村を取り巻く環境は、大きく変化して食料安全保障が揺らいでいる。食料の安全保障のためには、土地改良事業に取り組み、農業の持続的発展を図ることが我々の使命であり、いまこそ私たち水土里ネットが力を合わせ、互いに支えあい、国民共有の貴重な財産である「水・土・里」を次の世代に引き継ぐことを、ここ佐賀の地より高らかに宣言する。』と大会宣言を行い、次回開催の奈良県に大会旗が引き継がれ、盛会のうちに閉会した。

改良大会佐賀大会

さがで語ろう郷里の未来

翌日（16日）の現地視察は、九州農政局筑後川下流右岸農地防災事業所において、「佐賀平野における干拓の歴史とクリークの役割」について話を聞いた。

佐賀平野は、造陸運動と干拓により形成された極めて平坦な低平地帯のため「降れば大水、照れば干ばつ」と言われるほど水の確保に苦労しており、干ばつ時に備えた用水貯留と洪水時の排水を確保するため、川や江潮とつながったクリークが平野内に張り巡らされている。

近年、土水路であるクリーク法面の崩壊が進み、土砂の堆積によるクリーク断面の縮小、制水門などの閉塞が増加し、貯留、排水機能の低下により優良農地の湛水被害が発生、拡大しているほか、隣接する道路等が崩壊し、水管理に支障が出ている。

そこで、国営総合農地防災事業「筑後川下流右岸地区」において、クリークの法面保護工及び堆積土砂の撤去を行なっている。本工事によりクリーク機能を回復するとともに、広域的な災害を未然に防止している。本事業で取り組んだブロックマット護岸工事の概要について説明を受けた。



現地視察の状況（筑後川下流右岸農地防災事業所）

全国土地改良事業団体連合会長表彰



川田土地改良区理事長
長野県土地改良事業団体連合会代表監事

和田 博次 氏



長野県からの大会参加者（SAGAアリーナ前）

関東一都九県土地改良事業団体連合会役員による要望行動

進藤金日子参議院議員への要請行動

関東一都九県土地改良事業団体連合会協議会は、9月8日進藤金日子参議院議員に要望行動を行った。出席者は、関東一都九県土地改良事業団体連合会の役員など19名で、協議会当番県である長野県土地改良事業団体連合会 白鳥公晴専務理事が代表して要請書を提出した。

はじめに、白鳥専務理事が「私たちは土地改良事業を押し進める団体である。少数与党政権下で、農政の方向性が不安定化している状況下にあっても進藤参議院議員の基に集まって全国、関東の農業・農村整備事業をしっかりと支え・推進するために、要望行動と意見交換会を計画した。」と要請の目的を述べた。

その後、関東一都九県土地改良事業団体連合会の役員が、それぞれの地域の課題と要望・提案について1時間あまり意見交換を行った。

進藤参議院議員からは、「本日はいろいろな意見・提案を頂き有難うございました。」と御礼が述べられ、以下の話があった。

1. 令和7年度補正予算の経済対策として ①国土強靱化、②TPP対策、③食料安全保障強化対策に農業構造転換集中対策の別枠予算を加えた4つの枠組みの中で今年度予算7,000億円（当初6,500億円）を目指す。
2. 11月26日は「農業農村整備の集い」があるが、皆さんの意見を結集して財務省にはたらき掛け、意見を反映した令和8年度予算の政府案としたい。また、農業構造転換集中対策委員会において、「皆様方の意見を代弁して対応していきたい。」との話があった。



関東一都九県土地改良事業団体連合会役員による要請書の手交

以下の4項目を要請しました。

4つの要望項目

1. 農業農村整備の一層の推進を図るため令和8年度当初予算、令和7年度補正予算を確保すること。
2. 骨太方針にうたわれた農業農村整備事業に係る施策を実施するための予算を別枠で確保すること。
3. 基盤整備事業の推進や生産性の向上、所得向上など食料安全保障の強化を図ること。
4. 水土里ビジョンが円滑に実施されるよう国、県は、支援・協力・助言等を積極的に行うこと。

本会若手職員が「姨捨の棚田」で鎌による稲刈り体験

本会は、田んぼ2枚、200m²を借り受け（オーナーとなり）、若手職員が鎌による稲刈りを行った。

好天に恵まれた9月19日、千曲市「姨捨の棚田」で本会若手職員他9名が鎌による稲刈りに励んだ。5月23日に同職員が手植えをした田んぼが収穫時期を迎えたため、本地域で棚田の保全活動をしている「姨捨棚田ファーム」の方々に指導を頂きながら、稲刈りを行った。

稲作全体が機械化されている昨今、鎌を使った手作業だけの稲刈りはめずらしく、刈り取った稲を束たり、束ねた稲束を干すためのハゼの組み立て、ハゼかけ作業を参加者が協力して行った。

また、一連の作業を通して日本の伝統的なコメづくりの大変さと機械化の必要性を実感した。

ハゼ掛けした稲は「姨捨棚田ファーム」の方に、脱穀、粳摺り、精米をしていただいた。



手植えによる田植え



鎌による稲刈り



ハゼ掛け作業



稲刈り完了

収穫したコメは150kg程あり、一部を「ふれあいネット信州」が行っているフードバンクに寄付した。

また、コメは作業に携わった職員で分けて家に持ち帰り食したが、粘り気と甘みが凝縮されとてもおいしかった。

本地区の棚田米は、日中の寒暖差と清らかな水、澄んだ空気の中で育つため食味に優れていると評価されている。



収穫した米をフードバンクに寄付

姨捨の棚田について

姨捨の棚田は、千曲市にある階段状の水田で、月が移りゆく様子を表した「田毎の月^{たごと}」という名前で知られている。平成11年には全国で初めて棚田として国の名勝に指定され、同年には「日本の棚田百選」に認定されている。また、平成22年には「重要文化的景観」に選定されたほか、令和2年には日本遺産に認定されている。

姨捨の棚田では、棚田の保全、都市と農村の交流を進めるため「棚田貸します制度」を実施しており、市が棚田を地権者から借り受け、会員を募集し、貸し付けをしている。

会員は田植え、草刈り、稲刈り、脱穀の各行事に参加し、お米を頂くことができる。



秋の姨捨の棚田

全土連会長表彰 松本市寿土地改良区

松本市寿土地改良区の受益地は、松本市の南部に位置し、鉢伏山の西麓から北に流れ出る牛伏川と塩沢川の扇状地に位置している。地勢は、南部赤木山周辺が700m程で、北部の牛伏川と田川の合流付近が590m程と標高差が大きくなっている。

その中で、南部小赤地区は水稻の他、りんご、加工トマト、野菜を栽培し、北部北六区地区は水田のブロックローテーションにより水稻と麦を6：4の割合で栽培している。

本土地改良区は、運営の合理化を図るため、平成9年に松本市寿土地改良区（昭和55年設立）と、松本市北六区土地改良区（昭和59年設立）が合併し誕生した。

令和6年度第66回全国土地改良功労者表彰で「全土連会長表彰」を受賞した松本市寿土地改良区の上條理事長と前小松理事長に土地改良区の今後の展望や課題についてお話を伺いました。

全国水土里ネット表彰式



表彰を受けた前小松理事長



これまでに取り組んできた主な事業

赤木地区は、昭和55年に中央自動車道関連の県営ほ場整備事業が117haで採択され、平坦部を水田に、段丘部を畑・樹園地に整備した。また、併せて受益地内22haについて畑地かんがい施設を建設している。

北六区地区は、昭和59年より県営ほ場整備に着手し、150haの農地を水田にほ場整備している。

当地区のかんがい用水は、牛伏川、塩沢川から取水しているが、十分な用水量が確保できないため、補助水源としてため池や深井戸が築造されている。これらの施設が耐用年数を迎えている昨今は、土地改良施設維持管理適正化事業による畑かん施設の更新や県単農業農村基盤整備事業による深井戸ポンプの更新、市単土地改良事業による水路改修を適宜適切に行っている。



北アルプスを望む受益地(麦栽培)



施設の維持管理

管理する施設は、用排水路が62.2km、深井戸施設が14箇所、表流水ポンプが2箇所、ため池が6箇所ある。これら施設の維持管理と配水管理は、各地域にある水利組合が行っている。また、小赤地区には畑地かんがい施設があり、かん水組合が管理している。

補修・更新が必要な施設並びに箇所については、地区の理事に要望を上げ、理事会で要望箇所を周り、補修・更新の優先順位を決定し工事を行っている。



土地改良区が管理している道見堤



本土地改良区の特徴

◆組織の沿革

県営ほ場整備事業実施のため、昭和55年に寿地区南部の小南地区が「松本市寿土地改良区」を設立した。

つづいて、昭和59年に寿地区北部の北六区地区が「松本市北六区土地改良区」を設立し事業を実施した。

当時は、この他に「松本市百瀬土地改良区」、「松本市竹淵土地改良区」、「松本市小池土地改良区」があり、それぞれの事業が完了した後は、寿地域が1つの改良区になることが条件で事業を実施してきた。このうち百瀬並びに竹淵土地改良区は解散して水利組合に、小池土地改良区は全域が宅地化されたため解散した。

最後に残った2つの改良区は、新設合併により、寿地区全域を受益地とした新たな「松本市寿土地改良区」として設立認可を受けた。

◆多面的機能支払い制度の活用

改良区受益地内には、「寿みどり保全協議会」があり、改良区と一体的な活動ができるように、本土地改良区の役員が代表を務め活動している。

改良区組合員、営農組織、地域住民ら約700人が様々な活動を行って、農業・農村の保全に取り組んでいる。

共同活動では、年3回の水路施設等の草刈りの他、各地区で花植活動やホタル観察会を行っている。

また、長寿命化のための活動として、水路改修工事や暗渠排水工事、直営での水路目地補修工事等を行い、土地改良区が所有する水路の維持・保全を図っている。

◆かかし祭り

本土地改良区では、寿子ども育成会が毎年行っている「かかし祭り」を支援している。道沿いに連なったかかしが寿地区の稲穂が実った秋の景色を彩っています。



今後の展望や課題

ほ場整備事業が完了してから40年以上が経過し、土地改良施設の老朽化が進行していることから、今後 施設補修、更新を計画的に行う必要がある。その中で、土地改良区と市町村等の関係者が連携して土地改良施設等の保全に取り組む「水土里ビジョン」の策定を行い、施設等を適切に管理・保全するための枠組みの構築を目指す。

また、当地域内は深井戸施設が多く、電気代高騰による維持管理費の増大に苦慮していることから、その財源となる国・県・市の補助金の有効活用を計るとともに、組合員の約7割が営農組織に耕作を委託しているため、耕作者の減少や土地持ち非農家の増加に対応した賦課金の在り方についても議論が必要と考えている。



多面的機能支払交付金長寿命化工事



水路の草刈り・泥上げ



花植活動



かかし祭り

松本市寿土地改良区

- ・所在地 松本市大字寿豊丘338-2
- ・関係市町村 松本市
- ・設立年月日 昭和55年4月
- ・受益面積 278ha (R7.4.1現在)
- ・組合員 634人 (R7.4.1現在)

2025年度(第74回)農業農村工学会賞 県関係者が3部門受賞

2025年度農業農村工学会・学会賞授与式が、令和7年9月2日(火)に宇都宮市で開催され、長野県関係の団体、個人が3部門において表彰されました。

学会賞は、農業農村工学において優れた業績をあげた団体、個人を表彰する制度で、有識者による学会賞選考委員会において選考される権威ある賞です。

この中で、長野地域振興局が制作した動画が「メディア賞」、(一社)農業振興整備ネットワークうえだの取組が「地域貢献賞」、南信州地域振興局 三浦広大技師の業績が「技術リポート賞」として表彰されました。

各受賞者の受賞理由とともに、取組の概要をご紹介します。



▲長野県関係の受賞者

(左から) (一社)農業振興整備ネットワークうえだ
山宮さん、依田さん、坂田さん、浅川理事
南信州地域振興局農地整備課 三浦技師
長野地域振興局農地整備課 小林課長補佐



▲西村会長から賞状を授与される受賞者

【メディア賞】

農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、映画等

蘇る農地 綿内りんごの復活にかけた人たち

長野県長野地域振興局

長野市において県が実施した「農地中間管理機構関連農地整備事業綿内東町地区」の記録動画を制作し、YouTubeを活用して情報発信した広報活動です。

この動画は、地域の農業者代表、行政、関係機関が連携し、荒廃した農地を整備し再生した過程をまとめたもので、「綿内りんご」の復活を通じて、地域の未来を切り拓こうとする人々の熱意と協働の姿が描かれています。

県職員自らが企画、撮影、編集までゼロ予算で制作したもので、関係者のインタビューを交えて構成されています。

実行委員会役員が全国各地の研修会に講師として招かれた際など、取組の紹介にこの動画が広く活用されています。



▲YouTube動画タイトル画面

右のコードから動画を
ご覧いただけます



受賞理由

- ・行政資料の制作に動画の活用が一般化していない現時点においては、先駆性のある試みであること
- ・手軽で安価なメディアを活用して行政資料を作成したものであり、今後普及していく可能性があること
- ・一度アップすれば、会議や講演の度に資料作成の準備をする必要がなく、話者を問わず一定レベルの情報提供が可能であること

【地域貢献賞】

農業地域社会の発展・活性化に貢献した業績

長野県上田市 多面活動の事務引受けます

— 農業生産基盤の適切な維持管理に向けて —

(一社)農業振興整備ネットワークうえだ

「ネットワークうえだ」は、上田市内で多面的機能支払の活動に取り組む組織の広域協定締結に併せ、事務を担う組織として平成30年に設立されました。

設立以前は、構成員の減少や高齢化、役員のなり手不足など活動継続に当たっての課題が生じていましたが、事務組織への事務の一元化により、書類の作成、行政機関等との調整、長寿命化工事の発注などの業務が円滑に行われ、交付金の有効活用と永続的な活動の礎となりました。これを契機に、上田市の活動組織数は、以前の42組織から現在67組織へと着実に増えてきました。

受け持つ事務量は県内では突出して多く、全国でも指折りの事務組織となっています。

受賞理由

- ・ 会員組織に事務局が出向いて各種活動の相談や現地の確認を行う「出前相談会」を継続的に実施する等、会員に対しきめ細やかなサービスを提供していること
- ・ 定期的に研修会を開催し、草刈安全講習等を行って会員組織の技術向上を図っているほか、「上田水土里会だより」を発行し、情報発信を積極的に実施していること
- ・ 確実な業務執行によって地域から大きな信頼を得て、会員組織数も増加していること



▲草刈機取り扱い安全講習会の様子

【優秀技術リポート賞】

学術又は技術に関する優秀な業績

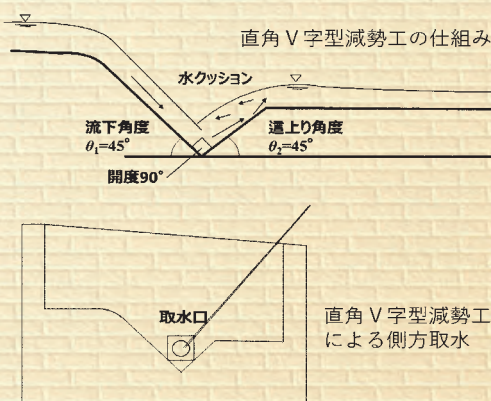
直角V字型減勢工による側方取水の設計と施工

長野県南信州地域振興局 三浦 広大 技師

中山間地域の急流部水路において安定的な取水を実現するため、流下水をクッションとして減勢することで騒音や振動を軽減し、維持管理も容易な「直角V字型減勢工」を採用し、その水クッション部で取水するという、全国でも施工事例のない新たな取水方法を導入した業績です。

現場を担当した三浦技師が大学の卒業論文で研究した粒子法による数値解析や模型実験を参考に設計を行い、飯綱町における実際の現場条件に対し実証実験・改良して施工したものです。

今後、同様の課題を抱える急流部水路の設計に大いに参考になるリポートとして期待されます。



受賞理由

- ・ 直角V字型減勢工は、その減勢効果と掃流力により、安定的な取水に加え土砂や枝葉等の堆積も防ぎ、維持管理の省力化にも寄与すること
- ・ 「直角V字型減勢工での側方取水」は施工事例がない中で、著者自らが数値解析や模型実験を行うことで取水位置等のさまざまな条件を検討し、現場への適用を可能にしたこと
- ・ 現地での水路改修に際しては、現地条件を踏まえた二次製品の活用などにより、施工性や経済性にも配慮した施工を行っていること
- ・ 筆者自らが、計画・設計の段階から施工実施の段階まで一貫して携わった報告であり、新技術導入の課題解決にあたっての有用な事例

「未来へつなごう！ふるさとの水土里」子ども絵画展2025

審査結果

全国土地改良事業団体連合会と都道府県土地改良事業団体連合会が開催した「未来へつなごう！ふるさとの水土里 子ども絵画展2025」は、全国から約2600点の作品が寄せられ、入賞30点、水土里ネット賞 各都道府県1点、入選140点、佳作170点が選ばれました。

長野県から応募した作品の中から、水土里ネットながの会長賞1点が選ばれたほか、水土里ネットおおまち地域用水対策協議会への応募の中から、地域用水優秀賞1点、入選4点、佳作3点が選ばれました。受賞された皆様、おめでとうございます！

なお、受賞作品は令和7年12月4日(木)から11日(木)までの間、東京都美術館に展示されます。来年度もたくさんのご応募お待ちしております。

水土里ネットながの会長賞



上田市立西小学校6年 モア アーサーさん
「お米の雨乞い」

水土里ネット おおまち地域用水 対策協議会の 受賞作品

地域用水優秀賞

大町市立 大町西小学校6年
藤井 未来さん
「いねかりと私」



入選



大町市立 大町西小学校6年 曾根原 東矢さん
「学校田のさぎょう」

入選



大町市立 大町西小学校6年 原 涼真さん
「大変だったいねかり」

入選



大町市立 大町西小学校6年 堀田 一花さん
「はじめてのいねかり」

入選



大町市立 大町東小学校6年 齊藤 真央さん
「協力したいねかり」

◎人事異動(農林水産省)

農林水産省関東農政局 (10月1日付)

関東農政局

局長(東北農政局長)

菅家 秀人

農林水産省関東農政局退職 (9月30日付)

関東農政局

局長

安東 隆

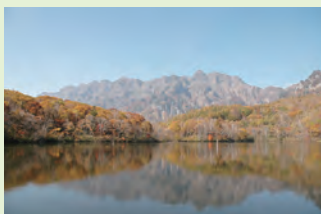
第48回全国土地改良大会 奈良大会について

令和8年度は、奈良県で第48回全国土地改良大会が開催されます。



開催概要

日程：2026年11月17日(火)
会場：奈良県コンベンションセンター(奈良市三条大路一丁目691-1)
主催：全国土地改理事業団体連合会、奈良県土地改理事業団体連合会
後援：林水産省、奈良県、奈良市、奈良県農業協同組合
式典：1. 式典：オープニングセレモニー、基調講演、土地改理事業功績者表彰、優良事例紹介 他
2. 物産展：市町村・県内企業等による特産品の展示、販売
3. パネル展：県内の食と農、農業農村整備の取り組み紹介や観光PR
4. 交歓会：(会場)奈良ロイヤルホテル
事業視察：県内各地の土地改良施設(ダム・頭首工等)、文化・歴史観光施設等



表紙写真紹介 ———— 鏡池(かがみいけ)

鏡池は、標高1200mの高地に開墾された水田を潤す目的で昭和44年から49年にかけて県営事業により築造された「温水ため池」である。正式名称は「西原ため池」という。長野県北部、戸隠高原の一角に位置する鏡池は、戸隠連峰の山影を静かに水面に映し出す名所である。鏡池という名の通り、無風時には水面が鏡のように静まり返り、戸隠連峰の姿を見事に写し出す。写真や絵画のモチーフとしても人気が高く、訪れる者すべてを魅了する自然美が広がっている「ため池」である。



みどり
水と里ネットながの
土地改良のしるべ

発行：令和7年11月（年4回発行）
発行所：長野県土地改良事業団体連合会
〒380-0838 長野市大字南長野字宮東452番地の1
TEL026-233-4281 <http://www.nag-doren.or.jp>
土地改良のしるべ編集人：白鳥 公晴